

平成27年度「全国学力・学習状況調査」の結果 —分析から見てきた成果・課題と今後の取組について—

区名	都島区
学校名	中野小学校
学校長名	小鳥 崇

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成27年4月21日（火）に、6年生を対象として、「教科（国語・算数・理科）に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

大阪市教育委員会では、保護者や地域の皆様等に説明責任を果たすとともに、より一層教育に関心をお持ちいただき、教育活動にご協力いただくため、各学校が調査結果や調査結果から明らかになった現状等について公表するものとしています。

本校でも、調査結果の分析を行い、これまでの成果や今後取り組むべき課題について明らかにしてまいりましたので、本市教育委員会の方針に則り公表いたします。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科も含め、総合的に子どもの学力向上を目指しています。学校の現状や取組の参考にしていただきたいと思います。

1 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準向上の観点から、児童の学力や学習状況を継続的に把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査内容

(1) 教科に関する調査（国語、算数、理科）

- ・主として「知識」に関する問題（A問題）
- ・主として「活用」に関する問題（B問題）
- ※ 理科については、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に出題

(2) 質問紙調査

- ・児童に対する調査
- ・学校に対する調査

3 調査の対象

- ・国・公・私立学校の小学校第6学年の原則として全生徒
- ・中野小学校では、第6学年 72名

平成27年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要

学力テストの3教科共に大阪市、全国の平均を上回る結果となった。科目別では国語A、Bと算数Aではほぼ全問正解の児童が多く、平均点を引き上げている。

算数Bと理科も全問正解は多くないが全体的に右寄りの同傾向である。

普段（月～金）に学校の授業以外で2時間以上勉強している児童が43.4%と全国平均を17.7%p上回っており、また、塾に行っていない児童が40.6%と全国平均を12.1%p下回っているので塾での勉強がプラスに作用しているのは間違いないが、基本的には真面目な児童像が浮かび上がる。

分析から見えてきた成果・課題

教科に関する調査より

- 【国語】 A、B共に問題形式の選択式、短答式の正答率が高いが、B問題の記述式は全国平均並みである。「問題を読み込み、整理して、自分の考えを書く」というような設問では全国平均を下回っており、自分の考えを言葉にするような言語活動の強化が課題である。
- 【算数】 問題形式を問わず高い正答率となっている。ただ、数量関係の領域で弱さが見られ、「単位量当たりの大きさを用いて、目的に応じた買物の仕方を選択して代金を求める」ような設問では平均を下回っている。
- 【理科】 記述式問題での弱さがみられ、問題からわかっている事、聞かれている事は何かを整理し、自分の考えを伝える力を付けていくことが課題である。

質問紙調査より

3教科それぞれについての「好きですか」という質問に対し、全国と比べ国語が高く、算数と理科は低くなっている。「読書は好きですか」はH25年度から少しずつ高くなってきており、国語の学力向上に繋がってきていると考えられる。

一日当たりのテレビゲーム（携帯、スマホ含む）の利用時間と正答率はきっちりと反比例しており、この点で家庭との連携は更に強化する必要がある。

一方で「自分の良いところ」など、自尊感情は低く、学校の様々な取組みが活きていない。

今後の取組

基本的に現状の取組みを継続

- 1、習熟度別少人数授業（3から6年生、算数）の継続。
- 2、研究授業（1学年1回）、研修授業（一人1回）の実施。
研究授業実施に合わせて事前の指導案検討会、事後の研究討議会の実施による指導力の向上。
- 3、「なかのマスター」「なかのだより」等を通して家庭との連携。
実施したアンケートを確実にフィードバックしてスマホ等の使用環境の改善を図る。
- 4、「学校のきまりを守る」「自分のいいところ」等、自尊感情の持たせ方を考えて実施。